質 問 回 答 書

2023 年 11 月 10 日

「バングラデシュ国 ICT 産業振興及びイノベーション推進に資する人材育成プロジェクト 」
（公示日：2023 年 11 月 1 日／調達管理番号：23a00655）について、質問と回答は以下の通りです。

通番号	当該頁項目	質問	回答
1	P.14 2）教員候補者向け現地研修	現地研修の実施回数として 12 回想定されていますが、P.34 2）渡航回数 にトップエスイー事務局の渡航回数（＝定額計上分）は 3 回と記載されています。 これは 12 回全て現地での実施を想定されているのか、あるいは完全オンラインの研修回があってもいいということなのか、どちらでしょうか。	完全オンラインの研修想定があっても問題ございません。 なお、受注者が渡航後に決定される本事業内で開発される研修コースによって、トップエスイーの業務従事者の参画形態が決定されることが想定されますので、トップエスイーの業務従事者は国内業務のみとなる可能性もございます。
2	P.14 脚注 6、脚注 7	現地研修にかかる開催費用は本見積への計上は不要との記載がありますが、教員候補者向け現地研修および実務者向け現地研修において、現地講師や研修参加者への謝金支払いが必要となった場合でも、本見積外と考えてよろしいでしょうか。	ご認識のとおりで問題ございません。
3	P.33 3) 作業計画	11 月 6 日時点で様式の修正がおこなわれ、貴機構ウェブサイトの様式名に「様式 4-1~4-5（4-2 除く）」とありますが、クリックすると様式一式には様式 4-2 も含まれていますので、その様式 4-2 にて作成、提出することで間違いないでしょうか。	ご理解のとおり、様式一式には様式 4-2 も含まれており、その様式 4-2 にて作成、提出をお願いします。 ご指摘のとおり、ウェブサイトに掲載の様式名を「様式 4-1～4-5（4-1（その 2）を除く）」に修正済です。

4	P.33 4) 要員計画	様式 4－3 について、旧様式では下記の通り実線と点線に分けて記載していましたが、 実線：当該期間全体日数を人月として計上する場合 点線：当該期間中において部分的に業務に従事する期間をのべ人月として計上する場合 新様式では現地業務・準備業務を分けずに留意事項 3 にある通り実線で示す、つまり、のべ人月で示すことはできなくなった、という理解でよいでしょうか。	ご理解のとおり、のべ人月の表示が不要になりました。
5	第２章【2】特記仕様書（案）第４条(3)教育機関との協力	最大 2 つの大学が連携対象と記載されていますが、すでに候補となる大学があれば大学名を教えて頂けますでしょうか。	現時点では、Bangabandhu Sheikh Mujibur Rahman Digital University（BDU）と United International University（UIU）の 2 校が候補となっていますが、変更の可能性はございます。
6	第２章【2】特記仕様書（案）第５条(1)②成果 2 に関わる活動	活動 2-1 の説明の中で「産・学の協働にて設計・開発する。」と記載されていますが、産・学は研修コースのカリキュラム、教科及び教材に対するレビューを行う立場と想定しておけばよろしいでしょうか。もしくは、産・学が作成したものをコンサルントがレビューすることもあると考えてよろしいでしょうか。（C/P 側に研修開発能力を向上してもらう為には後者の方法も有効と考えての質問です。）	開発体制や開発フローに関しては、“提案に求める事項”の No.2 に記載のある通り、柔軟性、持続性の担保といった点に留意いただきながら、プロポーザルにてご提案頂ければと思います。
7	第２章【2】特記仕様書（案）第４条2(1)4)	「成果物作成に当たっては著作権の扱いや侵害等に十分留意」と記載されていますが、トップエスイーの教材をローカライズし、現地に供与することに対して、現時点でトップエスイーとの	トップエスイーが既に有している教材等は多岐にわたりますが、シリーズ及び科目ごとに著作権譲渡の取扱いが異なる状況です。交渉順位 1 位者が確定後に、トップエスイーと協議の上、契約

		協議で著作権（著作人格権や著作隣接権）について確認されていることがあれば教えてください。	締結を想定しておりますので、同協議の際に詳細は協議させていただくことを想定しております。
8	第２章【2】特記仕様書（案）第５条 2(1)2)	教員候補者向け現地研修が 12 回、実務者向け現地研修が約 24 回となっていますが、この内訳について想定があればご教示ください。 （例えば、実務者向け現地研修についていえば 6 種類の研修を 4 回繰り返すパターンで 24 回とも考えられますが、3 種類の研修を 8 回繰り返すパターンで 24 回とも考えられます。どのような想定で約 24 回と算出されたのかをご教示頂ければ幸いです）	業務開始後にプロジェクト内で、開発される科目数及び研修回数を最終決定する想定でありますが、現時点では教員候補者向け現地研修は、6 種類の研修コース×2 回の計 12 回。現地研修は 6 種類の研修コース×4 回の計 24 回を想定して計上しております。
9	P11 4) 成果２	トップエスイーより既存教材の共有とあるが、教材は英語、日本語のどちらになりますか。	トップエスイーの既存教材は、日本語教材になります。
10	P11 4) 成果２	トップエスイーの役割分担として「ToT の実施」があるが、トップエスイーの講師による英語での ToT 実施を想定しても良いでしょうか。	基本的にご認識のとおりで問題ございませんが、場合によっては通訳が要する可能性もございます。
11	P34（4）2）	公開資料としてある、同国の過去の ICT 分野のプロジェクトとの連関性の観点で留意すべき点はあるか。	過去の ICT 分野のプロジェクト関係者との意見交換等は発生する可能性もありますが、特段留意すべき点などはございません。

以 上